

所沢カルチャーパークを考える未来会議 第3回学習会 概要

開催概要

日付 令和5年9月28日(木)

時間 19:30～20:30

場所 電子会議(ZOOM)にて開催

主催 所沢市建設部公園課

コーディネーター 有限会社 スマイルプラス 木村 智子 氏

講師 NPO法人 フュージョン長池 理事長 田所 喬 氏

会議概要

進行 公園課主査 橋村 知宏

木村コーディネーター挨拶

皆様と同じ所沢市民で、所沢市が管理する一番大きな公園、所沢カルチャーパークが、市民にとってかけがえのない場所になっていくことを願ってやまない市民の1人です。

今年度の未来会議は、3回の学習会と現地の見学会、話し合いを行います。

第1回目の学習会では、カルチャーパークのことが市民の方々にほとんど知られていないことから、まずは知って頂くことを目標にカルチャーパークの調査や計画に携わってこられた城戸基秀さんからお話頂きました。価値のある大切な自然がそこにあるというお話で、生物多様性の保全のためにも守っていく価値のある場所であることがわかりました。

第2回目の学習会は、カルチャーパークと同じように雑木林がたくさんあり、雑木林の調査をしながら楽しく雑木林の手入れをしている事例について平城尚史さんにお話頂きました。また同時にカルチャーパークでボランティア活動を行っているふるさと公園応援隊の深澤 満さんにお話を頂きました。

第1回、第2回ともアンケートフォームにお答えいただき、質問もあったそうなのですが、まだ市のホームページにアップされていないようです。出来次第、アップしていただけるよう、公園課にお願いします。

本日、第3回の学習会は田所 喬さんにお話頂きます。東京都八王子市にある長池公園という約20ヘクタールもの広さを持つ、雑木林が中心の公園があります。その指定管理を受け、管理をしているのが、NPO法人フュージョン長池の若き理事長である田所さんです。年齢等の自己紹介はご本人からお話がありますのでお聞きください。お伝えしたいのはフュージョン長池が公園管理をするために作られた団体ではないということです。まちづくりをするNPO法人がまちづくりと公園管理を一緒に行っているというところが、本日ご参加の皆様を知っていただきたいポイントです。本日は田所さんより質問をどうぞというお言葉をいただいております。お話が終わった後に時間の関係で2人くらいになると思いますが、質疑応答の時間を設けますので、何かお聞きになりたいことがありましたら、考えておいていただければと思います。

講義:地域協働型の公園管理からまちづくりへ

講師:NPO法人フュージョン長池 理事長 田所 喬 氏

八王子市都市公園指定管理者 ひとまちみどり由木 代表

八王子市地球温暖化防止活動推進センター センター長

カナダへの語学留学時、トロントで多国籍のコミュニティに触れ、地域活動に興味を持つ。日本でもPTA会長や消防団等を行う中で、前理事長との出会いがあり、現在のNPO法人に入り、ご活躍されている。

【NPO法人フュージョン長池の活動内容】

我々の団体が活動しているのが、多摩ニュータウンというところで日本最大のニュータウンと呼ばれていますけれども、2,884ヘクタールあります。その中でも八王子市東部地域というところで八王子市の東の端で多摩市や日野市、町田市に囲まれており、そこで活動をしています。

ジブリ映画の「平成狸合戦ぽんぽこ」のモデルになったというふうに言われています。この映画も山を切り崩して街を作っていくってそれに反旗をひるがえしたタヌキたちと人間の模様を描く映画ですけども、そういう場所です。本当に高山を切り崩して町を作ってそこに緑を残して、人が住んでいくってところを作っていった町なので、大体。1965年から70年代に開発が始まっ

て9割ぐらいがその開発で入ってきた人たち、1割が元々住んでいた人たちが残っているというそういうふうな背景の場所になります。

開発はされたけれども、案外、自然が残されている。だから僕らのNPOの役割というのは人とまち、緑を繋ぐ役割なので、指定管理者としての名前も「ひとまちみどり由木」という名前にしています。

NPO法人としては多岐にわたって色々な事業をやらせて頂いております。例えば自然環境保全という面では町田市の薬師池公園の植生調査や、神奈川県平塚市の環境保全団体の活動支援をさせていただいたり、様々なコンサルティングをやらせていただいています。教育支援としては視察研修やセミナーでの講師もやらせていただいています。コロナの時にはオンライン講座を実施していました。また、宣伝の一つですが、ネットショップもやっていて色々な形で知っていただくといった活動をしております。そのほかには、八王子市北野環境学習センターでの運営を現在行っています。ここは「あったかホール」という名前がついているんですが、隣に清掃工場があり、清掃工場の余熱を利用してプールやお風呂を運営していました。しかし、清掃工場から熱源を供給できなくなったことから操業停止となり、八王子市が環境学習の場にしようと旗揚げし、手を挙げさせていただきました。そこでは生きもの展示室という八王子の生き物に触れ合える小さな水族館を作りました。元々のお風呂をそのまま水族館にみたいにしてすごく面白いので、ぜひお越しください。

【地域協働型の公園管理からまちづくり】

公園の管理運営の中で地域の方とどういう風にその公園を管理運営しているのか、地域の方々の活動をどのように巻き込んで一緒にやっているのかということ、事例を交えてお話できればと思います。

まず、八王子はすごく公園が多くて、900箇所くらいあります。先ほど所沢市を調べたら236箇所です。そのうち178箇所は街区公園と呼ばれるいわゆる小さい公園、街中にあるような滑り台があってブランコがあって、という公園です。八王子は街区公園が537箇所と多くあります。全国でいえば都市公園が11万か所あると言われております。そのうち約9万箇所は街区公園となっていて、小さい公園が多いです。その街区公園をどういう風に活用するかということがすごく課題になっていて注目しています。街中に散らばる街区公園をよくしていくことで街全体を良くしていく、包括的な地域活性化に繋がるので、非常に興味を持っています。

八王子市は市を7つの地区に分割していて、それぞれ指定管理で管理をしています。我々はその中で東由木地区という77ヘクタール、81公園の管理をしています。長池公園が約20ヘクタールありますので、57ヘクタールに80公園があるということになり、先ほどの小さい街区公園も管理しています。

長池公園に関してお話すると、約20ヘクタールの大きい公園で、管理事務所もある公園になっています。公園の図面上、濃い緑の部分については、ハンノキ林等がある特別保全ゾーンとなっていて、入れない区域となっています。前段でお話したように、多摩ニュータウンという場所は山を切り崩して街を作っていった場所なので、自然を残すための公園も結構あります。長池公園でも同じように自然を公園の中で残していくという取り組みをしています。他には、築池という江戸末期から明治に造られたといわれる池があり、この池は昔浄瑠璃姫の伝説っていうのがあって昔戦国時代に、浄瑠璃姫という姫がお釈迦様を担いで、この池の中に自死したと、飛び込んだ後、お釈迦様だけ上がってきて、ここ長池の近くに、蓮正寺というお寺があるんですけどそこにお釈迦様が眠っているっていう伝説があったりと非常に歴史的にはとても深い場所です。あとは姿池という池があって、池が3つある公園になります。この姿池には四谷見附橋といって新宿の四谷にかかっていた橋ですが、実際に一部部材を利用して再現した橋があります。

話は戻しますが、81箇所の公園管理ということでこのような感じの公園を管理させていただいています。先ほど地域協働型と言いましたが、地域住民の方たちと共にやるっていうのがコンセプトですので、もうとにかくいろんな方とコラボレーションして協働してやるっていうのが我々の特徴です。指定管理者の名前はひとまちみどり由木という名前なんですけれども、我々が色々な団体を支えるというような構図をいつも組んで行っています。コンセプトとしては、地域住民と潜在的な地域資源の融合と多様な場、地域が主役のパークマネジメントということを徹底しています。

他の自治体とかによっては、例えば公園の管理を造園会社さんが中心になってやるともあれば、地域の自治会の方たちが中心になって草刈りをやったりとか、いろんな形があると思うんですけど、あの、我々の場合はどちらかっていうとその多角的にという画一的な管理ではなくて、とりあえずすごい言い方悪いんですけど自分たちではやらないというか、我々はもうコーディネート、パークマネジメントに徹底してあとは自分たちが運営をやる。もちろん自分たちでも草刈をするんですけど、とにかくいろんな方たちの力をお借りしてやるっていうのが、コンセプトです。

実際には平成29年度から令和4年度までに多くの団体、人数が公園内の活動をしてくれました。長池公園は年間21万人くらいの来園者数がありますがその中でこれだけの方が関わっていただいているという状況です。

【過去の地域協働数(講師資料より抜粋)】

年度	団体数	参加人数
平成29年度	101団体	12,669人
平成30年度	210団体	21,107人
令和元年度	146団体	18,704人
令和2年度	117団体	8,011人
令和3年度	155団体	15,159人
令和4年度	163団体	13,249人

実際に僕なんかいつも思うのは、その講演の中で完結するのではなくて、公園で活動したことを自分の日常の生活に戻さないと意味がないって思ってるんですね。

公園に来てくださいねっていうスタンスじゃなくて公園に来て、それを持って帰ってくださいねっていうスタンスである公園の管理運営をしているので、実際に自分の生活に戻ったとき、戻っ自分の例えばネットワークだったり関係性だったり、コミュニティだったりいろんなところにそういったことは行かせたりとか、あとはそういう団体が公園を活用しているんなことをしたりとかっていうこともできるだろうし、そうやって相乗効果でコネクションを強めていく。そういうところがすごくいいと思うし、あと公園はすごいユニバーサルな場所なので、小学校でも中学校でも高校でも大学でもなくて、結局、お腹の大きいお母さんからおじいちゃんおばあちゃんまで、どんな方でも来られる場所ですので、そういった意味では実際に本当はハードルが高なくて関わりやすいんです。公園ってそういう場所です。

今、世の中の的にあのボール遊びしちゃいけない、ここに入っちゃいけないよとか、あとは苦情が多かったりとか、すごく世の中ネガティブなところにスポット当てがちなんですけどもそうじゃなくって、公園って本当にユニバーサルな場所で、本当に潜在的な力はすごくポテンシャルすごいあるんで、何かそういったところをぜひ活用してほしいなと思います。

《事例:生きがい就労制度》スライドNo.39

この制度は簡単に言うと、定年退職した方をNPOで20人程度雇用させていただいて、一緒に公園管理をしています。

特に我々が住んでいる多摩ニュータウンっていうのは、都市に働きに出て戻ってくるっていう人たちが多かったですから、地域に居場所があんまりないんですよ。特に今の60代70代の方たちっていうのは、高度経済成長の後に、もう日本をどんどん経済成長させるために頑張ってきた人たちですので、言い方悪いですけど家庭を顧みることがあんまりなかったというか地域で何かをやっていうことが少なかったんですよ。だから帰ってきたときに居場所がないっていう人たちも結構多いです。

それならば居場所を公園に作ってしまおうということで、公園でこの生きがい就労っていうのは働いていただいて、と一緒に作業するっていうものです。皆さんから見ていただいて、水道を直してるおじさんがいると思うんですけど、この方水道工事の会社をやった社長さんですね、公園は水道が多いので、連絡すると行くよって言って車に乗っている道具を持ってって回ってくれたりとかってということで、それは別にあの無償ではなく有償でさせていただいてということで地域に住んでの方が行為に関わると。地域のこともよく知ってますから。なので、そういった意味では、地域に貢献したいという思いがある方も結構多いので今までできなかったという方と一緒に関わりがらやっているというのがこの制度ですね。

《多様なボランティア制度》スライドNo.40

わんちゃんパトロール隊といって、長池公園ではわんちゃんの散歩もすごく多いので、散歩させながらパトロールしてくださいねっていうような、そういった制度も設けています。

あとはパークサポーターって言って住んでいるところの隣にある公園を見回りしてもらって、写真撮って送ってもらってということで、公園の隣に住んでる方からゴミがすごい散らかってるよって写真を朝送ってくれて、それが本部に届いて我々が片付けに行くというよな、何かそういう風な形で地域の方と連携する。スマートフォンのアプリも活用しながら行っています。

《パークキッズレンジャープロジェクト》スライドNo.41

地域の子供たちが今80人ぐらい登録してくださってるんですけど、公園清掃とか生き物調査とかっていうのを公園のスタッフと一緒にやる、そのようなプロジェクトもやっています。

男の子2人が写っていますがこれは何をやっているかっていうと、雑木林の中にセンサーカメラを仕掛けてですね、それを、何日か後にまた取り出して、何が写ってるかって判断するんですけど、それを子供たちと一緒にやってる姿ですね、子供たちは図鑑を見たり、あのインターネットを使いながらこのカメラに映ってる動物はこれだっていうことで調べながら、レンジャーとしての活動をしてきています。

あとは私も中学校のPTAの会長、小学校もずっとPTAの会長やっていましたが、不登校っていうのが非常に大きな課題に今なっていて、八王子もそれは例外なくそうなんです。なので、実際にこのパーティでプロジェクトに参加している子供たちの中にも結構多くそういった小学校になかなか馴染めないとか、学校に行きづらい、行き渋ってるっていう子供たちもいて、そういう子供たちの非常に良い場所になっているんですね。公園に来ていただいて、そういう子供たちが活躍する場を設けて、それで元気に、もしくはそれぞれの力を発揮してもらって、別に学校行くことが全てじゃないんですけど、学校に行きたいんだったら行けるようになったらそれはいいわけで、

そういったことの後押しができるような、不登校支援とまで言わないですけどそういった実際に事例もありまして、そういったことも公園を活用してできるんですよね。

《パークキャンドルナイト》スライドNo.42

あとパークキャンドルナイトっていうのもやりました。これはコロナ禍でやったんですよね。皆さんもご存知のように、コロナ禍でなかなかイベントとか行事ができなかった時期がありました、その中で自治会さんは特に高齢化してるので、なかなか自分たちでやろうってならないんですよ、リスクも高いし、それで自治会の方から相談を受けて、公園でキャンドルナイトをやりたいかという話になりました。焼きそばとかフランクフルト売ったりとか、一般的なお祭りはできないけど、僕ら公園管理者が主催でやりますよと、じゃあ協力してくださいねっていうことで、町会自治会に協力をしていただいて、あの時実現したっていうのがこのパークキャンドルなんですね。

自治会の方は何やっていただいたかっていうとその人たちも得意技を生かせばいいので、まず地域にビラを撒いたりとか、お知らせをしたりっていうのはもう大得意なので、そういったことをやっていただいて、お互い役割分担をして、実際にたくさんの方に来ていただいたっていうのが、できないをできるに変える取り組みも公園の中ではできます。

《トイレのリニューアル》スライドNo.43

これは公園のトイレって多分最終手段だと思うんですよ、僕が言うのもなんですけど、やっぱりね、あの怖かったりとか汚かったりっていうのもすごくあるんで公園のトイレを綺麗にするって印象がガラッと変わります。

なので、非常に僕らもそれは力を入れてるところではあるんですけどお金の関係もあってなかなかできないんですが、こういったときに民間企業の方に改修お願いねじゃなくて、障害のある方たちと一緒に協働していただいて、障害のある方達の就労支援の場所としてしていただきました。

この民間企業の方が非常に理解のある方で、社会貢献企業のCSRとして、やりますよっていうことで、実際に企業の方が壁の塗り方とかを教えていただいて障害のある方がこうやって写真にあるように塗っていくといったようなこともやっています。

《ウォールペイント》スライドNo.44

これはもう、5年ぐらい前になりますが、簡単に言うと落書きが多い公園の壁を、子供たちに塗ってもらったという、ある意味言ってしまうとそれだけのプロジェクトですけども、これも地域の方とかいろんな方に関わっていただいたきっかけとか場になっているんですよね。

先ほどちょっとお話しました障害のある方たちっていうのは特性がありまして、全ての人ではないと思うんですけど、一つのことを集中してやるのがすごく得意なんです。まず空の色を塗らなきゃいけないんで、ブルーをもうひたすら綺麗に塗ってくれたんですよ。

その上に公園の管理者の中にデザイナーがいて、雑木林を書いてくれてその上に、この公園で自然観察会をやっている小学生の子供たちがいるんですけど、その子供たちが自分たちが見た絵を自分たちが見た鳥をそこに描いてそれを集大成とするっていうプロジェクトをやりました。実際に落書きが本当多かったんですけど、これ本当嘘じゃなくて、落書きがなくなりました

こういうふうな社会的な課題なんかも解決できるような取り組みも、発想次第ではできるのかなと思います。(ここまで)

落書きがなくなったことについては、色々な自治体の方からもご相談いただいたりとか、教えてくださいと言われるんですが、打ち上げ花火みたいに1回イベントをやってみんなで書きましょとなると、変な言い方ですけど、もう1回そこに行かないんですよ。書いているのは近くに住んでいる方とか、近隣の小学校の子供たちなので、この公園の隣の小学校の子供たちが見に来たりとか、お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんとかみんなが来るということで、安心安全の芽が増えるっていうのが、落書きをなくすための方策というか目的なんですよ。

だからイベントをやるのが目的じゃなくて、落書きを消すためにはどうしたらいいかっていう事を考えてこの公園を活用するっていうあのプロジェクトをやったりしました。これはすごく僕の中でも楽しかったというか一番思い出に残っている取り組みですね。

《子どもの居場所づくりプロジェクト》スライドNo.45

学童保育所について八王子市では小学校3年生まで預かってくれます。4年生以上預かってくれないんですね。実は今はちょっと少し幅が広がって6年生まで預かってくれるところも増えている。僕の娘なんかは小学校1年生のときに預かっていただいて、小学校2年ぐらいになったらもう入れなかったですね。そのぐらい待機児童が多かったです。

ですので、そういった学童保育所さんと協力して、公園も実はその学童保育所を卒業した子たちの居場所にもなるんですよ実は。

学童保育所の先生に聞くと、子供たちって放課後どこに行ってるかという、高い割合で、公園に行っていると聞きます。子供が放課後にいられる、そういった場所が近くにあれば、その公園をそういう場所にしていくということは非常に大事かなと思います。

今年度ちょっと公園の看板を作成してまして、学童保育所の子供たちが作った公園の看板を設置する予定にしています。そんなこともやっています。

《パークライブラリーイベント》スライドNo.46

これは僕が一番好きなイベントなんですけども、パークライブラリーイベントを毎年やっています。今年で4回目、今年も10月21日にあるんですけども、簡単に言うと、屋外図書館ですね、公園に図書館を作って、みんなにリラックスして、本を読んでもらいたいというものです。

元々は、コロナ禍で図書館の利用率が7割まで落ち込んだということで相談を受けたことがきっかけですが、コロナ禍でなかなか室内に行くというハードルが高かった時期だったんですよ、その時に公園でやったらいいんじゃないですかってことで公園に本を300冊以上持ってきていただきました。

来ていただく子供たちとか大人とが楽しんで読んでいただくってような空間を作るために、スネアの間伐材の椅子を作ったり、本棚を作ったりとかしながら来ていただいた方に親しんでいただくってことをやっています。

司書さんが来てくださるので、本に詳しい人たちが10人ぐらい来てくれるので、その場でこう説明してくれたりとかしてですね。

そういったこともできますのでちょっとなかなか行政の縦割りを崩すのは難しいかもしれませんが、あの図書館とか、公園とか、いろんな健康とかいろんなこと掛け合わせると、非常に面白い取り組みになります。

《長池かいぼりの実施》スライドNo.47

あとはかいぼりですね、池の水を全部抜くってよくテレビでやってますが、僕らも5年ぐらい前にやりました。

あれってすごいお金かかるんですよ。池の水を抜くってこと自体が動力を使って抜かないとなかなか抜けなくてってことで、あとは抜いた後にちゃんと整備して改善させないと環境は戻ってこないんで、そういったところのマンパワーだったりとか、環境に詳しい人とか、いろんな方が必要なので本当に何百万ってお金がかかると思うんです。

でも我々の場合、幸いにもほぼお金をかけずにできたっていうのがこの長池かいぼりだったんですよ。一つは皆さんもご存知だと思うんですけど、三鷹にある井の頭公園に「井の頭かいぼり

隊」という皆さんがいらっしやいまして、彼らが研修場所を探しているということで、長池を研修会場としていただいて泥さらいだったりとか木を切ったりとかそういったことを全部してもらいました。

水を抜く方法ですが、皆さんちょっと小学校時代とか思い出していただきたいんですけど、サイフォンっていう方法ですね、ホースの端を持って中に水を溜めて真空にさせて、水に浸して角度をつけると水が流れていくシステムがありますが、それを使って1ヶ月ぐらいかけて水を抜いたりとかしてですね、いろんな知恵を使って実際にやってみてその結果、60年ぶりに都内絶滅の水草(ミズキノシタ)、あとはジュンサイですね。復活いたしました。

植物って本当に不思議ですよ。僕もそんなに詳しくないので、あんまり理解はしてないですけど埋土種子と言って、土の中に種が眠っていて、環境が良くなると復活するんですよ。すごいですよね植物の生命力って。そんな形で実際にこんな活動をさせていただいています。

《ナラ枯れ対策》スライドNo.48

ナラ枯れ対策ということで所沢の方は僕もよく見てないからわかんないですけども、今、ナラが枯れていくっていう現象が非常に進行してしまっています。ナラ枯れはカシノナガキクイムシという虫が木に入ってますね、それで老木を枯らしてしまうっていう現象ですが、長池公園でも去年も300本ぐらい切りました。

だからそういったことも、木を切って再生させるには、というところで、企業の方と連携して、コナラの苗木を植樹したりということもやっています。

《環境保全活動団体の支援》スライドNo.49～51

地域協働型の公園管理からまちづくりということですが、メンバーが高齢化していて活動が停滞している団体なんかもサポートして、イベントを実施したりとかしながらやっています。

地域の方々といろんな方々に協力していただくってことは、正直もしかしたら面倒くさいって思うかもしれないですけど、持続可能な活動に繋がるんですよやっぱり。この団体もメンバーが本当に70代ぐらいで、皆さん高齢化しててどうしようって話をしたときに、いろんな団体と協働でイベントをやったりとか、若い人たちを入れてっていうことで3年ぐらいかけて、やってきました。

実際今、若い人たちもメンバーに入って活動が活発化しているときの事例ですけどもそういった形で地域の方と、かつ関わっているというようなそんな事例です。

あと、我々NPOとしても、地域団体同士で「ゆぎねっと結」という団体を結成し、色々な活動をしています。

あと、僕の本ではないんですけども、我々の活動も紹介していただいていますので、紹介します。「協力のテクノロジー」と言って、NPO法を作ったNPO法人シーズの元代表の方が、書いた本ですけども、すごく参考になると思います。公園の管理の中で、地域協働でどういうふうに行っていくのかとか地域の人たちをどういうふうに協力していくのかということ、非常に分かりやすくうまく説明しています。

そういうことで足早になりましたけども私の話は終わりになります。所沢の方もこれからってところだと思います。先ほど木村さんからもお話していただきましたけども、包み隠すことは何もないので、何でもお金のことでいいです、何でも質問してください。

何でも力になれることはやりたいと思いますので、何か協力できることがあったら、あの時かな、ご連絡いただいたり、言っていただければなと思いますので、よろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

【質疑応答】

Q:自分自身、団地で地域活動を盛り上げようという仕事を長年やってきた経緯があって木村さんとコミュニティガーデンを作った経緯もあります。今でも苦勞していることが、中高年層の男性を取り込む方法や地域活動に誘う方法です。田所さんはどのように行っているか。(中村氏)

A:実際にはあらゆる手を尽くして色々なきっかけを作っている感じです。中高年の方たちの関わり方は、例えば長池公園には会議室もあるので、そういったところで講座をやらせようとか講師をやらせよう市民講師制度というものもあって市民の方にどんどん講師としてやらせようってしています。

あとは顕微鏡を扱ってる人がいるんですけどそういう人にはその建物の中に顕微鏡を置いてもらって教えてもらったりとか、草刈りとか保全が好きな人もいますのでそういう人には保全隊とか作ったりとか、もう正直もうあの手この手でこれやりましょこれやりましょっていうのにもとにかくそれをすごいやるしかないっていう感じでやってきましたね。

何か、はいこの一手ってなかなかないんですけど、男の人って本当に女性と違ってね、お話をしたりとか、いろんな人と喋ったりってことそんな雑談ができるって場もなかなか少ないですね。何かそういう意味ではいろんなきっかけを作らなきゃなっていうのはあります。

Q:若い世代へのアクティビティへの参加誘導の方法やコツ、苦労している点はありますか。

(中村氏)

A:なかなか若い世代に例えば草刈りなどの汗を流す作業に参加してもらうことは難しいです。そのため、草刈り作業の後に公園で育てているハーブを使ってお茶会をセットにするなどの若い世代の方も参加しやすいように工夫しています。

Q:多世代が参加していることがすごいなと感じました。実際に民間の代表として色々なことを立ち上げたりしていますが、自治体と組んだり、営利非営利の枠に縛られずに連携したりということがなかなか難しいと感じています。団体の属性などに捉われずにうまく繋がっていく秘訣があったら教えてください。(松平氏)

A:何か事業を行うにあたっていろいろな人と協働することは、例えばNPOではできないけど民間企業では大丈夫だったり、その逆もあったりします。それぞれが持っている特性・個性とか力が全然違うと思いますので、それぞれできることをできる方がやりましょう、というふうにコーディネートする団体とかといっしょにやると多分うまくいくのかなと思います。そのような形で我々も民間企業の方とやっています。

なので、あの民間企業が公園の方にCSRとか社会貢献活動とか新人研修とかで来ていただくときって、僕らは直接頼まないんですよ、企業には直接的には繋がらないんですね。

その間に、企業連携が得意なNPOがいたりとか、あとは実際にそういう企業さんがいてその企業さんの先にいるお客さんの団体と繋がったりみたいな感じでやってるので、ちょっと間に挟むんですけども、そんな感じでやってるのが僕らのやり方っていうではありますね。

講義終了

今後の予定

第1回未来会議:所沢カルチャーパーク

令和5年10月21日(土) 10:00～12:00

所沢カルチャーパークを考える未来会議

9月15日(金)より公募委員を募集開始。詳細は広報ところざわ9月号、市HPで公開中。

第1回、第2回両方に参加できる方で全3回の学習会のいずれかに参加された方が対象。

公募は10月6日(金)まで受付、10月11日(水)に決定通知を発送予定です。

第2回未来会議:所沢市役所8階大会議室

令和5年12月9日(土) 10:00～12:00